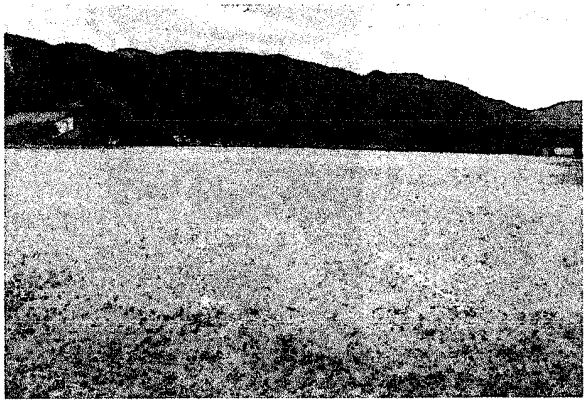
フィールド(現場)からの風 ⑭

宮田守男



秋の代表的行事と思っていた白馬村民運動会の開催が見送られたとの情報。50年以上続けられた行事だが、急な判断に驚きを持つ。確かに議員のブログにも次のようなコメントが記載されている。

「大勢の参加のもと…と言いたいのですが。役場職員・行政関係者・体協関係者・等々の顔の間に、一般住民…と言う印象。面倒でイヤだな…と思うかもしれないけれど。普段話せない方ともけっこう話をしたり、地域の連帯感を感じたり…悪い面ばかりではありません。村長は開会式で、健康、運動ばかりを、強調してましたけど、ほかに見えない住民同士の心のつながりを得たり感じたりする日でもあると思うのです」。見識の高い議員のコメントに賛同するのは、私だけなのだろうか。聞くと、議会関係者には事前の相談はなかったようだ。

「運動会」、フリー百科事典ウィキペディアによると、地域社会などの構成員あるいは関係者が一定のプログラムに従って行う体育的な行事。イギリスやドイツの体育的行事に起源を有するが、日本における「運動会」は特に、年中行事として、社会的に広く普及したものであることから「近代日本独特の体育行事」である、と説明されている。近年は、地域での「運動会」は過疎化や、つながりの希薄化などの影響で中止されたとの情報も多い。しかし、参加して忘れられない記憶も多いはずだ。分館の代表でリレーを走った事。地区が総合優勝し喜び合った事。昭和30年台、自転車の荷台で、当時は珍しいアイスキャンデーが売られ、競い合って食べた記憶。一緒に参加した家族との楽しい想いで。スポーツには無縁と思っていた知人の活躍。出店や屋台を楽しみにした幼少期。

今回の中止の決定は、事前に公民館事務局から、各分館に運動会についてのアンケートがされ、最終的に分館長会議で決まったと聞いた。

平成27年度の村一般会計当初予算で、どの様な検討がされ、予算付けがされたのか。アンケートの手続きを行政組織(課長会議等)で審議されたのか。特に疑問なのは、公民館運営審議会で、どの様に審議されたかだ。社会教育法の第29条に公民館運営審議会について次のよう記されている。公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものとする。第30条では、委員は、村の教育委員会が委嘱する定めだ。村でも、白馬村公民館条例が制定され、公民館運営審議会が設置されている。地域社会において、社会体育や社会教育の持つ意義は大きい。委嘱された10名を超える審議員が、どの様な意識を持って論議してきたのか知りたくなる。

地域で展開している行事の期待する本当の意味について考えてみませんか

神城断層地震災害では、地域の絆の強さで、1人の死亡者も出さなかったとの賞賛の声が全国から寄せられ、その取り組み状況の講演依頼が数多く寄せられている。その絆を強く

村民運動会の会場の1つ村営北部グラウンド、老若男女が集い交流を目的とした行事は、今後開催されるのだろうか。

したのも、運動会開催が大きな要因であることは疑う余地もない。

まして、白馬村では、平成27年度を初年度に、平成31年度を目標年度とする5か年計画を策定し、白馬村スポーツ推進計画をスタートしたばかりだ。スポーツが心身ともに健康な生活を営む上で、大変重要なものになってきていると趣旨で説明している。

「スポーツへの参画機会の創出と環境整備に努める事は、健康増進と地域の活性化へのつながり、活力ある村の未来のためには必要不可欠で(中略)村民のスポーツへの関心や参加促進、更には、地域の一体感の醸成を図れる等、スポーツの力は無限大であります」とし「スポーツの力で未来を拓く・スポーツを通じて、白馬の活力と、村民の健康を願って」と基本理念を村民に周知したばかりだ。

一旦、中止になった行事を、再開する事は、簡単でないことは、皆の知るところです。よく「継続は力なり」と言われ、継続する事で、地域文化が醸成されると言われています。特に最近、外国人定住者が増加して、地域とのつながりが大切と言われ、地域に住む老若男女等が参集した行事の必要性が高まっています。

避けて通れない、人口減社会と向き合う地域として、運動会自体が、これまでどおり公民館事業として、実施できるのか、新たな価値観と意義を持ちながら、他の組織が企画立案して、全村民対象のスポーツ事業を開催できるのか。全村民になぜ行うのか、明確にしながら実施する事はもちろんの事、スポーツを通じた、コミュニティづくりはどうあるべきか。行政・議会・教育関係者・地域関係者が真剣に向き合うことが、これからの地域のあり方を示す「道しるべ」探しにつながるのではと思っている。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・森上白馬村)